Prize エコー・クラシックの授賞式が、ハリケーンの中で決行

「北ドイツに大きな被害をもたらしたハリケーンがハンブルクを直撃した10月29日の夜、グラミー賞に続く影響力を誇るというエコー・クラシック賞の第24回授賞式ガラ・コンサートがエルプフィルハーモニーで決行された。線路上に倒れた木々などに阻まれ、北ドイツに向かうすべての電車が運行不能となり、客席にも多少空席が見えた。

トップ・バッターはエコー賞常連のヨナス・カウフマンで、ウェルテルのアリアを歌った。「今年の指揮者」部門を、エーテボリ交響楽団を率いてファラオ・クラシックからリリースされたR.シュトラウス《アルプス交響曲》で授賞したケント・ナガノが指揮するのに合わせて、フランス・オペラを選んだのかもしれないが、ウェルテルがはまり役だったころのカウフマンはもうそこにはいなかった。

凍てつく霜を想起させるようなダニエル・ホープのヴィヴァルディ《四季》〜〈冬〉、新進歌手部門のアイーダ・ガリフリーナとプリティ・イェンデの初々しいショー、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の12人のチェリストの行儀良いピアソラ《カランブレ》の演奏後、今宵のクライマックスが訪れた。

「今年の女性歌手」に選ばれたジョイス・ディドナートがパーセル《ディドとエネアス》のアリアを歌うと、ショウ・ビジネスの灯りが消え、本質的な感情だけがホールを満たした。彼女の頬にも涙がつたい、観客も涙した。パリのテロをきっかけに、ワーナーから発表したこのCD「戦争と平和の中で」を持って、イタリアのバロック・アンサンブル、イル・ポモドーロと世界を廻り、平和を訴えているとスピーチした。その後はマウリツィオ・ポリーニが3度目の受賞、「今年の男性歌手」のマティアス・ゲルネ、ルカ・ドゥバルグなども印象的なパフォーマンスを聴かせた。 (中 東生)

ディドナートの歌唱には観客も涙した。エコー・クラシックの授賞式から ©BVMI / Oliver Waltenscheid